

2014年度第3回 日本学連幹事会 議事録

発言者 (敬称略)	発言内容など
	<p>8.シード選手紹介のあり方について 9.インカレ表彰、閉会式のあり方について</p> <p>加盟員より「インカレ開会式でのシード選手紹介とインカレ表彰式・閉会式の在り方に問題があり、見直すべきだ」という意見が寄せられたため、幹事会で議論した。 シード選手紹介については、「シード選手やその関係者の負担になっているうえ、モラルの問題がある」とされ、また、インカレ表彰式・閉会式については、「時間的な問題とモラルの問題がある」という問題提起があった。 幹事会としては、これらの問題提起について理解したうえで、インカレ終了後にアンケート調査を行い、加盟員の認識を把握して、それらの在り方について考えていくこととなった。</p>
野本	<p>早稲田大学4年の尾崎弘和氏より、「シード選手紹介のあり方」と「インカレ表彰、閉会式のあり方」についての提案があった。 「シード選手紹介のあり方」については、選手に課される負担が大きいと、「そもそも学生選手権の格式として、学連がシード選手紹介をするべきではなく、必要ならば、シード選手経験者などの意見を聞くことができるだろう」としている。 また、「インカレ表彰、閉会式のあり方」では、現在、表彰式では、各クラスごとに写真撮影や花束贈呈を行っているが、「それによって時間が押しやり、大人数が一斉に動き出すために危険性がある」という問題があるので見直してほしいとのことだった。 こういった意見をもらったため、今回の議題としてもらった。</p>
大西	<p>【シード選手紹介のあり方について】 「シード選手紹介では、一般の人から見れば面白くない内容が散見される」というが、ここでいう「一般の人」というのはどういう人を指しているのだろうか。</p>
佐藤	<p>(来賓として出席した、インカレ開催地の)市長さんだろうか。</p>
大久保	<p>ただ市長さんは5分くらいしかいない。</p>
野本	<p>基本的には「(インカレとしての)格式として問題がある」ということを言いたいのだろう。</p>
平野	<p>シード選手紹介は事業部の担当である。私の考えを述べると、今年に関しては、この一意見だけで変えることは難しいので、例年通り行いたい。今年度のシード選手や他の加盟員がシード選手紹介について、どのように考えているのか調査して、来年度以降に引き継いで考えていきたいと思う。</p>
野本	<p>「こういう意見があるので知ってもらいたい」という(提案者の)意図なのだと思う。シード選手紹介を楽しみにしている人もいるだろうし、その一方で不満に感じる人もいると思う。ヒアリングをしてみても、判断してみれば良いと思う。</p>
大西	<p>話をまとめると、「インカレ開会式は大きな会場を貸し切っているのに、ふざけ過ぎではないのか」ということだろう。</p>
佐藤	<p>そのようにとらえる人がいてもおかしくはないだろう。</p>
野本	<p>その考え方はそれで筋は通っていると思う。</p>
宇井	<p>意見を集めるきっかけとなったので、(インカレ)終了後にみんなに聞いてみたい。</p>
野本	<p>もっといいやり方があるかもしれないし、「そもそも(シード選手紹介は)必要ない」という意見があるかもしれない。</p>
	<p>【インカレ表彰、閉会式のあり方について】</p>
宇井	<p>インカレ表彰式についてはどうだろうか。表彰式の様子を見ていて、みんな「危ない」と思うのだろうし、やられる側も怖いだろう。表彰式終了後に大学単位で写真を撮るなどするのは問題ないと思うが、それを表彰式の時間を使ってまでやるのは見直した方がよいという意見なのだろう。</p>
大西	<p>花束贈呈の時間に制限をかけるべきだろう。本来は花束を渡すための時間だが、いつの間にか、うまい棒やバナナといった花束以外のものを渡すようになった。年によっては、「表彰対象者に渡してよいのは1人1つまで」という制限がかけられていたことがある。ただ、花屋さんと呼んでいる以上、花束贈呈はあった方がよい。</p>
佐藤	<p>閉会式のときに、幹事長からこのことについて述べてみたらどうだろうか。</p>
宇井	<p>話す機会があったら、そのことについて触れることができたらよい、と思う。</p>
	<p>10.目安箱の設置</p>
	<p>加盟員から、「Twitter上で日本学連の活動に関する議論が繰り広げられることがあるが、これらの意見を、公式な形で募集してみたらどうだろうか」という意見が寄せられた。加盟員が幹事会で意見を届けるのはハードルが高い現実があり、そのハードルを下げるためには、目安箱を設置することが示された。しかし、幹事会の議論が加盟員になかなか伝わっていないという現状もあるため、まずは各地区学連で各大学渉外へその議論について理解してもらうことになった。</p>
佐藤	<p>これも、ある加盟員から提案があったため、今回の幹事会の議題に追加したものだ。</p>

以前からTwitterで(日本学連の活動について)議論している人が少なからずいる。「そういった形で意見をもらうのは望ましくはないのではないだろうか。目安箱でもいいし、ホームページなどで募集したらどうだろうか」という意見を私が受け取った。

本来は、意見は学連の方にメールで送るのが普通なのだろう。(寄せられた意見のとおり)学連ホームページ上や大会会場などで紙に書く形で(学連に関する)意見を募集して幹事長へ伝えるようにすれば、加盟員が意見を言いやすくなると思う。

現状では、例えば各大学の渉外や幹事を通さないと、幹事会まで意見が届かないので、幹事の知り合いがいらないような人は意見が言いづらい。「幹事会は何をやっているのかわからない」と感じている人はかなり多いと思う。私も大学1年の頃はそうだった。「いぶき」でも広報はしているが、幹事会と加盟員との垣根をもっと取り払っていった方がいいと思う。

各大学の渉外から各地区学連幹事長を通じて幹事会へ意見を届けるのは、ハードルが高すぎるように思う。

日本学連が後援している大会の会場に目安箱を置いてもいいのかもしれない。

それとは別にメールアドレスを作ってみてもいいだろう。

今年のインカレに目安箱を置くことはできないだろうか。

置くことは簡単にできるが、(関係のない意見を)取捨選択できないといけない。

あと、「OB・OGになったときに意見が言いづらい」という声もある。

そうすると、無記名だと困るだろう。OB・OGの意見を受け付けるとしても、名前を書いてもらうとかした方がいいと思う。あと、「幹事会で何をやっているのかわからない」という人だと目安箱を置いたこともわからないだろうから、置く場合は周知した方がいいと思う。

今回の(インカレプリントに関する)アンケートに関して述べると、加盟校数に対して、アンケート結果を出している大学が少ない(8校)と思う。またインカレミドルのアンケートはインターネット上で解答できるが、回答数は少なかった。目安箱もそうだが、「どうやったら意見を言ってくれるか」という観点が必要だと思う。

大学によっては、話し合っても意見が出ないということがあるようだ。

名古屋大学では、メールを渉外に送る形で意見を募集したが、1通も来なかった。

今回のアンケート結果は、意見がなくても送るようにしたのだろうか。

意見があったら出してもらおうようにした。(結果が出ていない大学については)意見が何もなかったのかもしれない。

どうしても大学としての意見を出してほしいときは、必ず提出するように指示すれば、大体の大学は出してくれると思う。(今回のインカレプリントのアンケートのように)「意見があれば出してほしい」とすると、回答する大学が限られてくる印象が現状としてある。

(意見を出してもらおうようにするには)各大学の渉外に頑張ってもらわなければならないのかもしれない。幹事会で話し合っても伝わらない。総会やメーリングリストで呼びかけて、動かすしかないだろう。「インカレに出ている以上、インカレを良くしていきたいのならば、アンケートに答えてほしい」ということを強い言葉で呼びかけなければならないのかもしれない。

ちなみに金沢大学はなぜ毎回アンケートに回答できるのだろうか。

(インカレミドルについての)Webアンケートについては、北信越学連は(実力的に)中間層が多く、競技的に熱心な加盟員が多いため、回答も多かったのだろう。

インカレプリントに関するアンケートについては、Web上の掲示板に、メーリングリストで送信した文章を掲載して、ミーティングで話し合った。

ただ、スルーするところはスルーする。Bエリート議論では、インカレ規則案で変更されている部分について、それがBエリートに関することだと全体は気づかずにいたので、私とその概要を説明して、議論させた。

今思ったことだが、その議題についてよく理解している人が各大学にいないのだと思う。私が渉外的时候は、議事録はしっかり読めていなかったもので、その当時は今ほど議題の説明ができなかったと思う。渉外がすべての話を理解しているわけではない。渉外がわからないから、みんなわからないのだと思う。わかる手段があればいいと思う。日本学連非公式Twitterのようなもので、幹事会の議論をかみ砕いて説明することが必要だと思う。例えば、インカレミドルについては、インカレがどう変わるのか、わからないのであり、難しいことではあるが、幹事会の議論が加盟員に伝えることが(加盟員へ情報を伝える)第一歩である。

議事録を読むことは大変に感じる人もいようから、論点を示すことは大切だろう。

京大では、議事録を部内で共有する際、議論の論点を示している。そういう取り組みをするだけでも違うと思う。各地区学連幹事長には、地区学連総会などで大学の渉外と話すときに、そういったことをしてほしい。ここにいる人が働きかけをして、徐々によくなっていけばいいと思う。すぐにみんなが意見を出してくれるようにはならないと思うが、大事なことである。

自分の大学で話すべき論点を示すことが、渉外の仕事なのだと思う。

関東では、渉外の仕事について最初の総会で確認している。ただ、今話してきたことが軽視されている傾向にあると思う。

Twitter上でそんなに鋭い意見が飛び交っているのか。

全部は把握していないが、(そういうことはある)。

まずは、各地区学連幹事長が話をよく理解して、地区学連総会で各大学渉外に幹事会の議論について話す機会を設ける必要があるだろう。

厳しいことを言えば、毎年幹事会で発言している人がすごく少ない。幹事も、わからないことは、この場で聞いてほしい。

佐藤	理事の方などは難しい話をしているので、わからない話があると思うが、聞いてほしい。また、地区学連総会では、逆に、涉外がわからないところを説明したり、理解しているか聞いてみたりしてほしい。
	議論を元に戻す。意見をどのように取り扱うか考えたい。人数が多いと見たかどうかわからなくなるので、2・3人で意見を見ていいかもしれない。
齋藤	先ほど大西・技術委員長が言ったように、アンケートを書くときの必須事項を決めたほうがよいだろう。地区学連や学年は必要だろう。名前は任意でもいいかもしれない。
大西	記入用紙を作ってみてはどうだろうか。
佐藤	ただ、名前を書いてもらった方が、誠意ある回答が寄せられるだろう。
杉村	記名制にして公表時は名前を伏せるなどの工夫をしてはどうだろうか。
佐藤	目安箱の周知についても、各地区学連幹事長から言ってほしい。